

下田まち遺産案内

1 かだほんけ 加田本家 P10 参照

明治時代にカツオ船の網元をしていた加田氏の居宅で、伊豆石と木材が組み合わされた混構造の2階建てとなっています。初代・加田吉五郎が江戸時代末期に建築したといわれ、建物前には「吉五郎さんのガング」と呼ばれるガングもあったそうです。建物を支える梁には大きく湾曲した材を使用し、2階の小屋部分を広くするなど、昔の人の工夫が見られます。

右写真 外観。側面には伊豆石が使われている
下写真 湾曲した梁



2 ほうほんじさんずいごんげんさいれいはたまわし 報本寺山随権現祭礼幡廻し P9 参照

山随権現は土肥の豪族・富永政重といわれ(諸説あり)、戦国時代～江戸時代、加増野に流れ込んだ浪人による略奪等が横行したため、富永氏は村人とともに浪人を撃退したといわれています。この富永氏の遺徳を偲び、元禄2年(1689)頃から幡廻しが始まりました。幡廻しは毎年8月11日に加増野報本寺で行われ、若衆らが7mもの竹を引き回すようすはとても迫力があり、1度は見てもらいたいまち遺産です。

右写真 泥まみれになる奉仕者
下写真 本堂の前で幡廻しをする



3 しもだたいこまつり 下田太鼓祭り(正式名:下田八幡神社例大祭) P10 参照

毎年8月14・15日に行われる太鼓祭りは、第2代下田奉行の今村伝四郎正長公が制定し、そのルーツは大阪夏の陣で大勝した徳川軍が大阪城へ入場した様にあるといわれています。本紙の特集に関することでは、安政の大津波で壊滅した下田町を復興する際に埋め立てた土地を売り払って得たお金を、大工町は若者へ渡して祭りの道具を求めさせたそうです。このことから、160年以上前に生きた人々の祭りに対する熱い思いが感じられます。



左写真 昭和60年前後の太鼓橋の様子。供奉道具が黒色に塗られている
右写真 現在の太鼓橋。宮入前のクライマックス



こちらの下田まち遺産については、下田市役所ホームページ内にて紹介しております。 [下田まち遺産](#) [検索](#)

下田まち遺産案内

4 おおいちょう 大公孫樹 P9 参照

横川の諏訪神社の入口にある大公孫樹は、雄木のため銀杏は実りません。市内でも最大と言っていいほど大きいため、市の天然記念物にも指定されています。横川地区の家並みから一段高い所に作られた境内に立っているため、この谷のどこからもよく見える、この地のランドマーク的存在の下田まち遺産です。

右写真 遠景。中央に大公孫樹が見える
下写真 大公孫樹近景



6 こうちすわのかわづざくら 河内諏訪の河津桜 P9 参照

伊豆急行線蓮台寺駅の東側、伊東方面への列車の右側の車窓を眺めると目に飛び込んでくる桜の一群が河内諏訪の河津桜です。ここは、河津桜普及の第一人者である故村田治重氏のお宅の裏山です。村田氏なくては、現在の河津桜に関するお祭りはなかったと言っても過言ではないでしょう。下田市民であった村田氏の功績も含め、まち遺産に認定させていただきました。なお、お吉桜も村田氏の功績により普及した桜です。

右写真 河津桜近景。
下写真 周りの緑でより映える河津桜



ご不明な点、ご質問等ありましたらご連絡下さい。問い合わせ先: 下田市建設課 TEL.0558-22-2219

5 おきちざくら お吉桜 P9 参照

昭和33年(1958)、桜に関心が深い^{みつくり}故小林吉太氏が、横川の山から早咲きの大島桜を見つけました。その苗木を育成中に、早咲きの大島桜より開花は遅いけれど、ピンクの美しい花の系統を見出し、増殖したのがお吉ヶ淵の桜(お吉桜)です。小中高の卒業式シーズンに見事に咲き誇る美しさに感動した方から提案いただきました。



お吉が淵に咲くお吉桜

7 きゅうちょうないのおいなりさんぐん 旧町内のお稲荷さん群 P10 参照

旧町内には、お稲荷様が点在しています。下田町は昔から港町として栄えて商家が多かったため、商売繁盛の神様であるお稲荷様が多かったのではないのでしょうか。今でも、本社である京都の伏見稲荷神社の御祭神が山へ降りた日とされる2月最初の午の日(初午)に、お稲荷様のある旧町ではお祭りをします。昔ほどは豪勢に行っていないようですが、この文化も含めてまち遺産です。



まちなか二丁目(旧三町目)のお稲荷様